



▲歯科衛生士から歯みがき指導を受けたり、フッ化物塗布・洗口や歯と口の健康について学んだりした『第53回歯と口の健康週間行事』。学んだ後は、バルーンアートやパントマイム、消防車見学などを楽しみました。6月7日(日)／保健センター (写真：市民カメラマン・佐藤清一郎)

# みんなの



▲総勢498人の豆力士が熱戦を繰り広げた『第36回ちびっこフェスティバル「わんぱく相撲大会」所沢場所』。大技が決まると会場からは大きな拍手と歓声が上がりました。6月14日(日)／市民体育館 (写真：市民カメラマン・谷 亮／動画：同・宮本博史)

# ひろば

スマホで動画！  
アプリでARのある  
写真を写すと動画  
が見られます。  
詳細は市HP「(AR)  
」で検索)へ



▲若手アーティストの黒瀬マナミ、トニック、CAFOTARNOなど個性豊かな4組が出演した『サタデーダンスライブ(音まちまちなかコンサートVol.3)』。平安の世よりやってきたという歌舞アーティスト「夜弓神楽狐之灯矢(写真)」のライブでは、観客も一緒に盛り上がりました。6月13日(土)／西武所沢店 (写真：市民カメラマン・中村 仁)



▲大勢のファンが見守る中で行われた、所沢市を中心に活動する5人組のJ・POPボーカルグループ「JAY'S GARDEN」の「所沢市観光大使委嘱式」。委嘱式後にはミニライブが行われ、2013年にメジャーデビューした曲「頑張っていこうぜ」やトコロソング「toko toko トコロん！」などを披露しました。5月24日(日)／市役所1階市民ホール (写真：市民カメラマン・遠井洋子)

## 突撃！ライオンズ特派員！

### 今回の市民レポーター！

右から会社の同僚で参加した鹿島美保さん(けやき台在住)、白崎吉朗さん(入間市在住)、山崎英之さん(下安松在住)



### 今回の突撃先！



増田達也投手(背番号14/右投・右打) 兵庫県出身の27歳。大学、社会人を経て平成24年ドラフト1位で入団。以来中継ぎを務め、今シーズンは一軍に定着し、昨シーズンを超える23ホールド(6月21日現在)。勝利の方程式の一翼を担う不動の中継ぎ投手。

### インタビュー「増田投手ってどんな人？」

練習後、爽やかな笑顔でベンチに戻って来た増田投手。マウンドでの気迫溢れるピッチングとは対照的に、緊張気味に話してくれました。所沢の印象を聞いてみると「人混みが苦手な都会はいやだなあ」と思っていたけど、緑が多く雰囲気が淡路島(出身地)に似ていて落ち着く」と答えてくれました。人混みが苦手なせいかな、所沢駅に足を運ぶことは少ないらしく、徐々に街中を散策してみるそうです。

狭山湖に走りに行って富士山を眺めるときもあるとか。昨年ドラフト1位の高橋光成投手が道に迷っていたという裏話も聞きました。

接戦での登板が多く、プレッシャーが掛かる中でのリラックス方法を聞いたところ「試合直前までお風呂に入っている」と意外な答えにびっくり！

心身共にリラックスして試合に臨むのですね。「連投も多くなって、身体のケアに気をつかうが、抑えの高橋朋巳投手に繋ぐ使命にやりがいを感じる」と力強く答えてくれた増田投手。この日の試合でも登板し、無失点で高橋投手に繋ぎ、勝利を呼び込んでくれました。

▲インタビュー風景

### レポートを終えて

今最も勢いのある選手なので緊張しましたが、気さくで話やすく、質問にも持ち味の直球と同様に、まっすぐ答えてくれました。大勢の人で賑わう優勝パレードで、人混みが苦手な増田投手を探さず日があるのが待ち遠しいです。これからも応援します！

商業観光課 ☎ 2998-9155

## はっぴつところ 野老っ子



富士山頂に登ったことはありますか？登るだけでも大変なのに、富士山頂の山小屋「山口屋支店」で23年間、働いている久米岳晴さんをご紹介します。

山好きのお父さんが「岳晴」と名付け「今では時に、本名ですか？と聞かれるのですが、山小屋で働くまでは名前が似つかず、子どものころに高尾や奥多摩の山などに登った程度で、本格的な登山などは、したことはありませんでした」と笑います。

山小屋で働く前は、大学卒業後に大企業で5年間勤務。「当時は恵まれていた環境でしたが、組織の一員として働くのではなく、自分しかできないことが何かあるのでは」と思い、退職を決意しました。

働くきっかけは、後にたまたま見たアルバイト情報誌。「日本一高い所」「夏の2カ月間のみ」「自然の中で働く」に心ひかれました。

山小屋での仕事は、午前2時半ごろから登山者への食事の準備にはじまり、3時半すぎに店を開け、御来光の時間を迎えます。「登山者にとって山頂で見る御来光が最高潮のとき。その瞬間を多くの方と一緒に味わえることは、自分にとってとても幸せなときです」と話します。その後は日没まで多くの登山者を迎え入れます。

山頂生活は「空気が薄い上、寒く乾燥し、プライベート空間も少な

## 富士山頂・山小屋生活23年

久米 岳晴さん(山口在住)

く、下界では当たり前のも物無く厳しいことだらけ)。続けるきっかけを与えてくれたのは「悪天候で写真が撮れなくてもこれが今日の山の姿、自然はいつか見せてくれる、とありのままを受け入れ山頂で動く写真家(故人)との出会い」「生き方に気付かされた」と言います。さらに「日本一の場所に身を置き、登山者に頼りにされ、経験を積むほどに精神的に強く、おおらかになっていきます」「厳しい自然環境だからこそ、感性が磨かれる」と山頂生活の魅力を話します。

下界では地域にも役割を見だし、PTA会長や自治会長を経験してきました。今のライフスタイルは「妻や子どもと共に協力して築いてきました。家族があってこそです」と、家族に感謝しています。

久米さんは「情報は簡単に入手できる現代ですが、体験しなければ分からないことがたくさんある。行動した結果、予期せぬことや辛いことが生じてありのままに受け入れる心を持ち続けたいです」と言い、今年も多くの登山者を迎え入れます。

日本一高い所で働く久米さんに会いに、富士登山に挑戦しませんか？



▲富士山頂から見る御来光(久米さん撮影)

## 地域の絆 やっぱり自治会・町内会でしょ！14

ご近所同士で力を合わせ、さまざまな課題解決や地域の絆づくりを行っている自治会・町内会をご紹介します。

### 小手指地区の小手指第六区

小手指第六区は所沢市の西に位置し、南部・中部・北部の3つの地区が合同で活動する自治会です。昭和30年代に発足し、地域の発展と共に現在では約1,060世帯で活動しています。発足当時と比べると住宅が増えましたが、地区内の桜並木や近隣の狭山湖など、緑も多く残る地区です。

六区では、さまざまなイベントを開催していますが、その中でも最も力を入れているイベントは「体育祭」です。地域の方に「遊水池」の名で親しまれる集水池を会場に毎年10月に開催して、今年で35回目を迎えます。単独の自治会で体育祭を行う自治会は市内でも少なく、35年間継続している体育祭は六区の目玉イベントといえます。第1回体育祭から運営に携わってきた宮寺敏雄代表区長は「体育祭のポスターを小学生が作成することで地区全体が盛り上がりやすくなります」また、毎年多くの方が参加するので「たくさんの方の賞品を用意するのが大変です」と嬉しそうに話してくれました。



▲体育祭でのパン食い競走

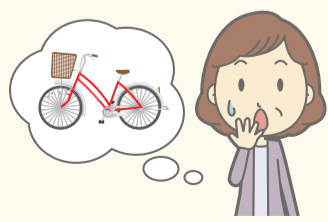
防犯・防災活動にも力を入れている六区では、防犯活動の一環として、毎月の夜間パトロールや資源物の持ち去り防止活動を行っています。また、防災訓練での避難行動では、全員が決まった経路を利用していましたが、現在は各自が避難経路を研究しながら避難所に集合するようにしており、個人の防災意識が高まる工夫をしています。これは「形ができていても、動けなければ意味がない」という宮寺代表区長の思いから実施している活動です。

若い世代の加入促進を進めようとして、新築住宅ができたときには、近くに住む自治会役員が訪問して加入の案内をしています。現在は宮寺代表区長の世代が自治会を支えています。これからは今の子どもたちが「小手指第六区が自分のふるさと」だと言える時代もくることを考え、地域づくりを進めていきたいということです。

次回は、山口地区の町合自治会を紹介します。地域づくり推進課 ☎ 2998-9083

## 類は友を呼ぶ

中富南 永住 眞澄  
勤怠いといえ、今でも思いつく赤面してしまうのが20年以上も前の、近頃のスーパーに買い物に行った時の出来事。スーパーの前に停めてあった自転車の荷台に荷物を乗せてスライソイに家に着くと、何となく私の自転車が、「間違えた！今日は自転車で来たって行かなかった！ヒエヒエ」と引き返す目撃者が無数に探している2人の婦人。「すみません泥棒ではありません！と何度も頭を下げながら情けない思いでいつかになりました。ある日、突然捨て猫がいてかわいそうだったから飼って」と無理やりバルシヤ猫を連れてきた友人。ダメダメダメと言いつつ、結構かわいいじゃん！と夫の布団で寝ている猫を見ていた2人が突然連れて帰った猫を見た友人は「猫は友を呼ぶ」とはよく言ったもの。私の周りには勤怠い・早とちりの横綱たちでいっぱいなのかもしれません。



## 夫婦そろって

中富南 西山 広江  
何十年も前の就職活動の話。第一希望の某食品会社の研究室を受け、何回かの面接と試験に合格し無事に内定を受けた。ところが、事もあるが次回の会社訪問の日には内定をキャンセルし、友人と遊びに行ってしまったのだ。もちろん内定は取り消し。今でもテレビから流れる会社のCMがイヤになる。こんな話を夫にしたら、夫にも同じような経験があった。夫は会社の面接を受けるまで、自分が受けるはずだった会社を間違えていたことに気が付かなかったらしい。もうそんなこともあった。就職活動で頑張ってる皆さん、くれぐれもこんな勘違いがありませんように。

